

NEWS LETTER

エジプト・アラブ共和国
特別活動を中心とした
日本式教育モデル発展・普及プロジェクト



ニュースレター第10号

本号では、エジプト日本学校で実施している比較的新しい活動の一つ委員会活動についてご紹介します。導入当初は戸惑っていた学校も、現在では各学校で、さまざまな委員会が立ち上げられ、子どもたちが活躍しています。

他にも、エジプト日本学校での食育の取り組みなどをお知らせします。

第10号の 主な記事

エジプト日本学校
で行われている
委員会活動

エジプト日本学校
の食育

エジプトでは、日本の学習指導要領に定められた「特別活動」を参照し、現地の制度や習慣に沿って現地適合理化しています。そこで、本紙では、エジプトのものを「Tokkatsu」として表します。

エジプト日本学校で 行われている委員会活動

エジプト日本学校での比較的新しい活動の一つに、委員会活動があります。

これらの活動は、日本と同様に高学年の子どもたちが実施しているものです。委員会活動を通じて自分たちの学校生活を豊かにするなかで、自主性、社会性、問題解決能力などを伸ばすことが期待されます。

委員会の種類は、各校で異なりますが、図書委員会や広報委員会、環境委員会、保健委員会などが委員会活動の例として紹介され、多くの学校で実施されています。

その他に、ボランティア委員会や、幸福委員会、心のサポートを行う委員会など学校ごとに独自の委員会もあります。

実際の活動は、年度始めに各委員会のメンバーを募り、1年を通した活動計画を立てます。そして委員会の時間などを使いながらそれぞれの活動計画に沿って活動を行います。1年間で活動はひと区切りですが、進級し同じ委員会に入る子どももいれば、別の委員会に入る子どももいるそうです。

また、クラスの代表と委員会の代表から組織される代表委員会も1年間を通して活動しています。



JICAインターンの岡本さんによる 委員会活動レポート

エジプト日本学校では、1学年に1クラスの場合は4年生から委員会活動が始まります。今回は、委員会の活躍をしている事例を2つの学校から紹介したいと思います。



1. スナエイヤ校の代表委員会

エジプト日本学校スナエイヤ校の代表委員会では、4年生～6年生のクラス代表（2人ずつ）に加えて、図書委員会、幸せ委員会、健康委員会、管理委員会、環境委員会からも2人ずつ参加していました。議題は、「休み時間に全校生徒でどのように遊ぶか考えよう」です。これは、児童により提案された議題で、提案者も話し合いに参加しました。

この代表委員会では、児童たちが個人の意見ではなく、「委員会としての立場」から発言する様子が見られました。例えば、校庭で遊ぶとの提案に対して、図書委員は、校庭へ図書館の本を持っていくことはダメだと繰り返し懸念を述べていました。環境委員も、楽器を校庭へ持っていくことはダメだと主張していました。また、健康委員会は、遊んでいる中で怪我をした場合の手当を担当すると申し出ていました。



彼らが頻繁にペアで話し合い、委員会や学年の代表としての意見をすり合わせてから手を挙げて発言する様子も見られました。委員会活動を通して、生徒が個人と集団としての意見を分けて考える力や、組織を代表して意見を述べる力が育っていることがうかがえました。

2. シュルーク1校でのSpecial needs day（国際障害者デー）

エジプト日本学校 シュルーク1では、12月4日にSpecial needs dayと称して、地域の特別支援学校の児童を招いて交流イベントが開催されました。4年生～6年生で構成される各委員会がイベント内容の企画、当日の運営を分担し、大活躍していました！



図書委員会 計画委員会
子どもたちの誘導・案内



報道委員会
参加者へインタビュー・
学校のFacebookページへの投稿



創作委員会
合奏・国歌斉唱・手話を用いた合唱・劇・パペットショー
(掃除の啓発・いじめ防止)
児童は劇を通して、掃除や整理整頓の必要性や、いじめが悪いことであることを訴えました。劇の後には、招いた子どもたちに対して「劇を通して学んだこと」を尋ね、伝えたいメッセージを明確にしていました。

Special needs day での 各委員会による分担



環境農業委員会

お花の鉢植え体験（鉢のデコレーション・お花に栄養剤を吹きかける。）

全てを児童が行うのではなく、招いた子どもを主体として、その補助をエジプト日本学校の生徒が行っていました。



運動・健康委員会

体を動かす遊びを準備・実践

椅子取りゲーム・リズムのゲームなど子どもの年齢に合わせてできる動きを考え、誘導している様子が見られました。

特別なニーズのある子どもと他の児童が、もっとお互いを知り、仲よく協力できるようになってほしいとの思いから始まったこのイベントは、今年で4度目の開催となります。生徒が主体となり、月2回の委員会活動の時間に話し合っ、準備が進められました。イベント後の5年生へのインタビューからは、彼らが自身の委員会とそのイベントでの役割を自覚し、役割を全うしていたことが分かりました。

委員会による活動ノート

各委員会は、毎年、年度初めに一年間のスケジュールを決め、それに沿って月2回、委員会活動の時間に活動します。委員会での話し合いの記録は、各委員会の記録冊子に丁寧にまとめられています。



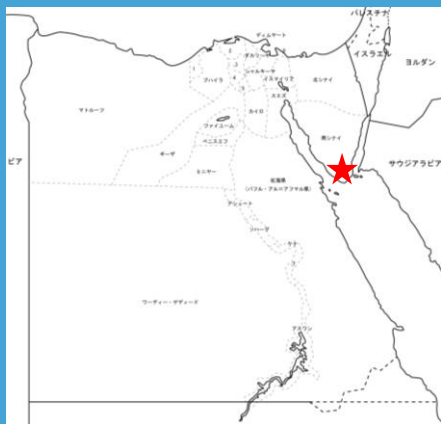
校内の掲示物

学校の廊下には、各委員会のメンバー紹介が飾られていました！工夫が凝らされた装飾で、委員会活動が楽しくなりそうです♪



2025年4月現在、エジプト全土に55校開校しているエジプト日本学校。各校の紹介と合わせて、学校ごとの取り組みなどを紹介します。

シャルムエルシェイク校



シャルムエルシェイク校は、2020年に開校した比較的新しい学校で幼稚園から小学校5年生までの308人の子どもたちが在籍しています。シナイ半島南部に位置し、白い砂浜、澄んだ青い海とそびえ立つ岩山に囲まれた自然豊かで、多くのホテルや観光地がある地域です。そのため、エジプトやアラブの文化と外国の文化が溶け込んでいるのが特徴です。



低学年向け、宗教の理解を深めるセミナーの開催

セミナー開催の背景

シャルムエルシェイク校には、エジプトの他の地域と比べてキリスト教の子どもも多く通っており※学校ではそれぞれの祝日の祝い方や、モスクや教会で行っているイベントや取り組みなどを紹介する機会が多くありました。一方で保護者からは、小さい子どもたちは、宗教の正しい理解をする必要があると心配の声も上がっていました。そこで学校は、セミナーを開催することを企画しました。

セミナー

2024年11月19日に、イスラム教とキリスト教の指導者を講師として学校に招き、小学校1年生と2年生の子ども、対象学年の教師全員、イスラム教とキリスト教の宗教科目の担当教員参加のセミナーを開催しました。

最初に両講師を図書館にお迎えし、5年生の子どもが学校を紹介するプレゼンテーションを行いました。

セミナーでは、子どもたちは友達としてモスクや教会で行っている活動に参加したり一緒に出かけることについてや、イスラム教ではラマダン（断食月）にはランタンを持ってきて

みんなでお祝いすること、キリスト教のイースターでは卵に色を塗ることなどが、両講師からお話されました。

子どもたちからは、「天国に行けるのは誰ですか？」「私たちは神に祈りますが、祈り方は人それぞれですか？」「教会に行くべきですか？」などの質問がありました。回答は、質問の内容に沿い子どもたちがわかるように簡略化されたものでしたが、私たちは互いに似ており、神様は、私たちを愛してくださるお方であり、私たちの神が私たちに満足してくださるように、私たちは互いに愛し合うべきだと、伝えられました。

セミナー後

学校では、保護者にセミナー開催について説明し、保護者は自宅での児童のフォローアップが行われました。本セミナーは保護者の意識向上にも役立ちました。

3月のラマダン前に、キリスト教徒の子どもも一緒にラマダンの飾りつけを楽しむ様子からは、子どもたちに良い影響を与えたことが感じられました。

(シャルムエルシェイク校 校長)

※エジプトの約90%はイスラム教と言われていて、シャルムエルシェイク校は約40%の子どもがキリスト教徒。



講師を迎えた様子



5年生が講師に学校を紹介している様子



セミナーを聞く子どもたち

プロジェクトメンバー登壇 のイベント・セミナー

これまでニュースレターでは、現地のエジプト人プロジェクトメンバーをご紹介してきましたが（ニュースレター第4号、第7号参照）、専門的な分野でも活躍する、ミギードさん、サファーさんが登壇した2025年に実施されたイベントをご紹介します。1つ目は、EDU-Port Japan の事業として実施されていた「非認知能力の育成に向けた特別活動の国際化と質保証に関する研究～日本型教育先進地エジプトにおけるTokkatsuの効果検証～」での報告会です。サファーさんによる「Tokkatsuの持続性強化に向けた質保証制度の共同開発」報告発表と、ミギードさん、サファーさんによるエジプトからのメッセージ「「本研究から何を受け取り、日本に何を伝えたいか」の発表がありました。お二人からは、今後の発展において、エジプトと日本とのより強い協力とエジプトと日本との協働が重要といったメッセージがありました。

2つ目は、JICAとロンドン大学衛生熱帯医学大学院学校保健栄養リサーチコンソーシアムとの共催により実施されたウェビナー「子どもたちのより健康な8000日のための質の高い学校給食と食育の実現に向けて」です。ここでは、ミギードさんが「エジプトの学校における特別活動の導入」のプレゼンテーションを行いました。本ウェビナーで発表されたエジプト日本学校での食育の取り組みをご紹介します。



エジプト日本学校での食育

エジプト日本学校では、主に学級指導、委員会、保護者のボランティアにより食育を進めています。

学級指導

各学校で実施された学級指導の題材をご紹介します

- 1 バランスのとれた食事をしよう。
- 2 健康的な朝食を食べよう。
- 3 よく噛んで食べよう。
- 4 野菜を食べよう。
- 5 サプリメントと健康について考えよう。
- 6 軽食をきちんと食べて健康を維持しよう。
- 7 食べるカロリーと消費カロリーを考えよう。
- 8 ファーストフードやジャンクフードを食べないようにしよう。
- 9 自分にとって正しい食事パターンを認識しよう。
- 10健康のために適切な栄養について考えよう。



実際の学級指導の授業では、先生から子どもたちに質問が投げかけられたり、ビデオ教材などを見て授業が始まります。その後に子どもたちが意見を言ったり、話し合ったりします。授業の最後には、それぞれの目標を頑張りカードに書いて、実践します。

委員会活動、イベントの実施



健康的な食事について理解を深めるために、委員会でも活動を行っています。保健委員会の子どもたちと、学校の看護師などが協力し、保護者を招いたイベントなども実施します。

保護者の協力



エジプトの公立の小学校では、お弁当にスナック菓子を持ってくる子どもも多くいます。一方、エジプト日本学校では、お弁当にスナック菓子を禁止しており、学校としても健康的な食事を推進しています。学校では、子どもたちへの指導と共に保護者への説明や、学校関係者全員への健康的な食事ができる環境づくりを推進しています。また、医師や看護師の保護者のボランティアによる、健康チェックなども実施しています。

第10号ニュースレターでは、エジプト日本学校で実施している委員会活動をご紹介しました。他にも、エジプト日本学校シャルムエルシェイク校での取り組みからは、エジプトならではの学校の様子を感じられたのではないのでしょうか。次号でも、エジプトのTokkatsuをお届けしていきます。

問い合わせ先

JICA技術協力プロジェクトチーム
holistic_edu@padecco.co.jp